

ツォンカパの自伝詩『トジェ・ドゥレマ』

小 谷 信 千 代

本書は正しくは

Raṅ gi rtogs pa brjod pa mdo tsam du bśad pa (Pek. No. 6060, 自己の物語の略説)

であり、チベット仏教の大成者であるツォンカパ = ロサンタクパ (Tsoṅ kha pa Blo bzañ grags pa, 1357-1419) が自ら自己の学修の経歴を詩の形にして記したものである。^①

ツォンカパの生涯を知るには、彼の直接の弟子ケートゥブ (mKas grub je dGe legs dpal bzañ po, 1385-1438) による次の二つの伝記

rJe bstun bla ma Tsoṅ kha pa chen poḥi ṅo mtshar rmad du byuñ baḥi rnam par thar pa dad paḥi ḥjug ṅogs (Toh. No. 5259, 尊者ラマ・ツォンカパ大徳の希有最勝の伝記, “信の渡津”, 一般には『テビジュンゴ』という略称で呼ばれる。)

rJe rin po cheḥi gsañ baḥi rnam thar rgya mtsho lta bu las cha śas ṅuñ ṅu shig yoñs su brjod paḥi gtam rin po cheḥi sñe ma (Toh. No. 5261, 尊者宝座の大海のごとき秘密伝記のうち僅かに一少分のみを詮述せる言談, “宝の穂”, 一般には『サンウィーナムタル』という略称で呼ばれる。)

が通常最も信憑性の高い資料とされている。前者に関しては、既に以下のような翻訳がある。

寺本婉雅『喇嘛教宗喀巴伝』(『仏教史学』第1編, 第2編, 1911, 1912)

法尊『宗喀巴大師伝』(『海潮音』第16巻, 第8~12号, 民国24年)

また一般には未公開ながら (PhD. dissertation, Harvard University, 1972), これら二書の英訳も行われているようである (Robert A. F. Thurman, *Tsong Khapa's Speech of Gold in the Essence of True Eloquence*, Princeton, 1984,

p. 72, n. 95, p. 78, n. 108)。

また蒙古人ラマ＝ロサンツルティム (Blo bzañ tshul khrim, 1740-1810) の
ツォンカパ伝も翻訳され、チベットテキストと共に出版されている。

Das Leben des Lamaistischen Heiligen Tsongkhapa Blo-Bzang-Grags-
pa, Wiesbaden, 1971.

さて本書『トジェ・ドゥレマ』は、約三葉程の短い伝記ではあるが、ツォンカパが自らの学修遍歴のあとを振り返って認めた自伝詩であり、彼の学問の仕方を知る上で好個の資料となるであろうと思われる。偉人の伝記がわれわれに多くの示唆を与えるものであることは、今更こと新しく言うまでもないことではあるが、この自伝詩の中にツォンカパが、『菩薩地』と『大乘莊嚴經論』とを照合して学んだ、ということ述べている個所をみつけた時には、彼の慧眼あるいはインド仏教から伝承された学修法の確かさに驚かされた。筆者の技量を以ってしては、自伝詩のもつ響きは現わし得ないが、碩学ツォンカパの学修法を紹介したく和訳と校訂テキストを提示する次第である。和訳に際しては本学講師の白館戒雲氏 (チベット名、ツルティム・ケサン) の助言を仰いだ。厚くお礼を申し上げます。

『トジェ・ドゥレマ』和訳

オーム、[一切衆生に] 至福のあらんことを。

善い世界と悟りと解脱とを見る世間の眼となり、輪廻の道を彷徨い疲れた者の安息所となり、幸福の源泉である、大恩あるラマと智慧の宝庫である尊者 (文殊師利) に帰命し奉る。

努力の及ばぬ時に大浪の如き [多くの福德と智慧の] 資糧を集めるには、[他の人の] 善業を喜ぶに如くはないと言われている。殊に「自分が曾て行った善業に関して慢心を離れることによって、大きな喜びを生ずるならば、過去の善業をより高めることになる」と勝者 [世尊] の説き給うたそのことを実行し、また [その言葉の中には] 他にも多くの事柄が含意されていることを理解して、私の心よ、おまえがそのような善びを生じてくれるならば、それはすばらしいことなのだ。

最初 [私は] 広く多く学ぶことに努めた。次ぎには総ての典籍が教訓 (upadeśa) となって現われるようになった。最後には昼夜を通じて実践し、そ

の総てを教えが広まるように廻向したのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだ感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

I 該博な知識への探索

取捨すべき事柄を迷わせる暗闇が正しい学修の灯明によって除かれなければ、道は判明しない。ましてや、解脱という最高の都に入ることができないことは言うまでもない。それ故、ミパン法主（弥勒）と六人の世界の莊嚴者（龍樹・聖提婆・無著・世親・陳那・法称）と量高のお二人（Gunaprabha, Śakyaprabha^②）と呼ばれる人たちの典籍に関しては、どれか一つだけとか皮相な理解で満足せず、全てを詳細に学修したのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだ感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

特に此岸のみを見る人〔凡夫〕がものごとの真実を決定するための、唯一の門である正しい論理の書籍の難解な個所に関して、繰り返し学んだ。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだ感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

顕密の典籍に努め励んでみたけれども、いざその甚だ深い意味を実践したり説明しようとする、何も学ばず何も知らない人の考えとそれ程隔たっていないことに気づいた。それで私は、特に深い意味を説き明かす龍樹の著書の道理に従って、正しい理解を導くための要点を総て学び、そして疑いを断じたのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだ感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

この世界には、完全な仏となるためには、甚深なる金剛乘（密教）と波羅蜜乘（顕教）の二種があり、そして、密教が波羅蜜よりもはるかに優れているということは、太陽や月のように普く知られている。この言葉を正しい言葉と認めつつ、その甚深なる〔金剛〕乗がどのようなものであるかを追究せずに、〔自分を〕智者であると言い張るような人は、たとえ智慧のある人であるとしても、それ以上愚かな人が他にあるであろうか。極めて得難い、この上なきこのような道を見棄て去るとは、何ということであろうか。故に、仏の最高乗であり、仏よりも稀有ですらある金剛乘であり、〔神通という一般

的な利験と、悟りという特別の利験との] 二種の利験の宝庫である、この甚深なる〔乗〕に悟入し、刻苦勉勵したのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

下位の三タントラの道もよく分らない人が、無上瑜伽タントラを全てのタントラの中で最高のものである、と決めたとしても、それはただ言葉で言うだけのことであることがよく分った。故に、『一切中圍衆密本統』や『妙成就正行大本統修習次第分』や『最聖妙臂請問本統』及び『禪定後次第分』などの所作タントラ (kriyā-tantra) を長い間学修したのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

第二のタントラである行タントラ (caryā-tantra) の根本である『大毗盧遮那成仏神変加持經』を学んだことによって、行タントラに関することは総てよく分るようになった。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

第三のタントラである瑜伽タントラ (yoga-tantra) の根本である『一切如来真实撰大乘現證三昧大教王經』や『密修習大金剛尖本統』を学んだことによって、瑜伽タントラの喜びを経験することができた。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

第四の無上瑜伽タントラ (anuttara-yoga-tantra) に関しては、インドの諸学者たちの間では太陽や月の如くによく知られている父タントラなる秘密集会タントラと、瑜伽母タントラなるヘーバジュラタントラ及び勝楽タントラとの、根本タントラと積タントラなどや、他の經典とタントラとは説き方の異なる偉大なる時輪タントラを解説した『撰怛特羅王時輪註積根本怛特羅隨入一万二千無垢光』を学んだ。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

〔以上は〕最初に広く多く学ぶことに努めたことに関する第一節である。

Ⅱ 学んだ書籍が実践のための教えとなったことについて

その後、人々の心の闇を除くものの中では最も勝れたお方である文殊師利に、強靱で長く特続する堅固な信仰を以て、〔学んだ〕典籍が教訓となって現われるようにと祈願し、総ての必要な資糧のために努めたのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

このようにして努力したおかげで、龍樹・無著から順次に相続し伝えられた菩提道次第の独特な思想が理解できるようになり、甚深にして最高の書である般若波羅蜜多経が教訓となって現われたのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

この北国〔チベット〕では、論理学の書を学んだ人も学んでいない人も、その多くは異句同音に、『集量論』や七部論^⑪のどこにも悟りに向う実践の順序は説かれていない、と言う。しかし文殊師利が陳那に対して、直接「それ（集量論）を著わしなさい。将来それは総ての人の眼となることでしょう。」と言われて〔著作の〕許可を与えられたことも正しいことであるとしている。しかし〔先に述べたような〕そういうことが間違った主張であることがはっきり分った。そのことを特に考えてみると、『集量論』の帰敬偈において〔世尊が〕量（判断根拠, pramāṇa）であることを証明する場合に、順観〔の四種の理由〕と逆観〔の四種の理由〕によって、〔世尊が〕解脱を求める人々にとって量となれる人であることを証明しているのである。そしてそれ故に、彼の教えのみが解脱を求める者にとって〔此岸より彼岸に入るための〕門であることを〔私は〕納得したのである。また、『集量論』には大乘と小乗の二乗の総ての要点がまとめられ論理を以てよく説かれているので、私はことのほかうれしく思ったのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

その後『菩薩地』と『大乘莊嚴經論』との二つを対照させてよく学んだので、ミパン法主（弥勒）の典籍とそれに順ずる一切の典籍とが、実践のための教訓となって現われたのである。^⑫

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

殊に甚深で広大な教えの集積を順番に並べて道の総ての要点を理解させる『大乘集菩薩学論』に依って、『経集』などの龍樹の多くの最高の書籍の内容が、〔仏教の〕実践次第であることがよく分ったのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

その後〔kriyā-tantra の〕『禪定後次第分』^⑮が、正覚者サンゲサンワ（Buddhaguhya）によってよく説明されたその註釈（『上静慮分次第広釈』^⑭）に依る時、道に関する総ての要点をよく示す教訓となって現われた。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

〔yoga-tantra の〕『一切如来真实撰大乘現証三昧大教王経』^⑮に説かれる道の要点が三三昧に撰まることが分った。更にまた、その道において深い意味を修習するに際して理解し難い点は、パンディタ＝サンゲサンワが根本タントラと釈タントラと支部タントラの三種のタントラを照し合わせて正しく説明して下さっており、三部のタントラの深い実践という修習次第を正しく説明して下さっているので、〔私の〕心の闇は除かれたのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

牟尼の総ての教えの中で最高のものは無上瑜伽タントラである。その中でも特に深いのは秘密集会タントラである。それに関する優れた解説者である龍樹は「根本タントラにおける道の要点は、六種の範疇(anta)と四種の仕方(naya)^⑰によって封印されている。それ故、釈タントラに従い、ラマの教訓に依って理解すべきである」と言う。そのことを肝要な点と心得て、教訓の中でも最高のものである『成就法略集』^⑮や『行合集燈』^⑱や『(秘密)集会成就法安立次第』^⑳など、秘密集会タントラに関する聖者の典籍の全てを長い間かかって学んだので、根本タントラが灯明のように明らかになった。〔そして明らかになった根本タントラに〕依り、五大釈タントラをも合わせてよく学修した。よく学修した結果、秘密集会の二次第全般と、特に円満次第の要点が全て理解できるようになったのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

〔このように秘密集会タントラを学んだ〕そのお陰で、勝楽、ヘーパジュ

ラ、時輪などの多くのタントラ部の要点が教訓となって現われたのである。私はそのことを他の場所で既に述べたので、ここでは賢明な人のためにほんの入門程度のことを記したのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

〔以上は〕中間に総ての典籍が教訓となって現われたことに関する第二節である。

Ⅲ 不断の実践とその功德の廻向

〔私は〕このようにして教訓を収納した蔵となった時、〔顕密〕二種の大乗に共通の道と、共通でない道の二次第との要点を集約して総て収めた道において習熟するように努めたのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。

ガンジス河の砂の数ほど〔多数〕の菩薩の誓願も、正法護持の誓願に包摂される、と説かれている。故にあらゆる善根を聚めて、その総てを牟尼の教えが広まるように廻向したのである。

そのことを今にして思えば、よく成し遂げられたものだと感謝いたします、智慧の宝庫である尊者（文殊師利）よ。〔以上は〕最後に昼夜を通じて実践したことと、〔実践による善根功德の〕一切を教えが広まるために廻向したことに關する第三節である。

私自身の善を増大し、且つ智者にして時機を得た人に入門の仕方を正しく説き示さんが為に、私自身のこの伝記を認めたのである。このことによって得られる諸善によって、〔上記の如き〕そういう学修順序に従って一切の衆生が牟尼のこの上なき行法を理解し、仏を満足せしめる道に悟入するに至らんことを。

訳 註

- ① Pek. No. 6060, Rañ gi rtogs pa brjod pa mdo tsaṃ du bśad pa. 本書はその随所に「よく成し遂げられたものだと感謝いたします」, *mdun ma legs nas gdaḥ, bkaḥ drin cheḥo* という句が繰り返し用いられている所から、通常『トジェ (rtogs brjod, 伝記) ドゥレマ』即ち『ドゥレという語のよく用いられる伝

記』と呼ばれている。常用經典として日常よく読誦されるものの一つ。本書は既に Robert A. F. Thurman によって英訳され *Destiny Fulfilled, Tsong Khaba's Education As A Song of Realization* と題して出版されている (Robert A. F. Thurman ed., *The Life and Teachings of Tsong Khaba*, Dharamsala, 1982)。筆者は1983年に Amherst College を訪れた際、教授よりこの書をいただいた。この機会にお礼を申し述べたい。

ツォンカバのこの書に関しては、拙著『大乘莊嚴經論の研究』の中でも若干ふれている (p. 53 参照)。

- ② Thurman は Gunaprabha と Śilaprabha としている (ibid., p. 248, n. 8) が、ここは律の研究者として著名な二人のことを指している、と考えられるので、Śilaprabha (チベット訳では Tshul khriṃs ḥod となるのであろうか) ではなく、Śākyaprabha であろう。
- ③ Pek. No. 429, dKyiḥ khhor thams cad kyi spyiḥi cho ga gsaṅ baḥi rgyud (Sarvamaṇḍala-sāmānyavidhi-guhyā-tantra)。
- ④ Pek. No. 431, Legs par grub par byed paḥi rgyud chen po las sgrub paḥi thabs rim par phyē ba (Susiddhikara-mahātantra-sādhanopāyika-paṭāla)。
- ⑤ Pek. No. 428, ḥPhags pa dpuṅ bzaṅ gis shus pa shes bya baḥi rgyud (Ārya-subāhupariṣcchā-nāma-tantra)。
- ⑥ Pek. No. 430, bSam gtan gyi phyi ma rim par phyē ba (Dhyānottara-paṭalakrama)。
- ⑦ Pek. No. 126, rNam par snaṅ mdsad chen po mñon par rdsogs par byaṅ chub pa rnam par sprul ba byin gyis rloḥ pa śin tu rgyas pa mdo sdeḥi dbaṅ po rgyal po shes bya baḥi chos kyi rnam graṅs (Mahāvairocanaḥhisambodhi-vikurvati-adhiṣṭhāna-vaipulya-sūtra-indrarāja-nāma-dharmaparyāya)。
- ⑧ Pek. No. 112, De bshin gśegs pa thams cad kyi de kho na ſiḍ bsduṣ pa shes bya ba theg pa chen poḥi mdo (Sarvatathāgata-tattvasaṃgraha-nāma-mahāyāna-sūtra)。
- ⑨ Pek. No. 113, gSaṅ ba rnal ḥbyor chen poḥi rgyud rdo rje rtse mo (Vajraśikhara-mahāguhyā-yogatantra)。
- ⑩ Pek. No. 2064, bsDus paḥi rgyud kyi rgyal po dus kyi ḥkhor loḥi ḥgrel bśad rtsa baḥi rgyud kyi rjes su ḥjug pa stoṅ phrag bcu gñis pa dri ma med paḥi ḥod ces bya ba (Vimalaprabhā-nāma-mūlatantrānuśāriṇi-dvādaśasāhasrikā-laghukālacakra-tantrarāja-ṭikā)。
- ⑪ Pramāṇavārttika, Nyāyabindu, Pramāṇaviniścaya, Hetubindu, Sambandhapariṣā, Santānāntarasiddhi, Vādanyāya の七論を指す。
- ⑫ 『大乘莊嚴經論』を『菩薩地』と対照させて学ぶという学習法は、二著の間に

存する緊密な関係をツォンカパが理解していたことを示すものとして興味深い。
ツォンカパのこの学習法は、ジャムヤン=ガロなど後世の研究者たちに受け継が
れている（前掲拙著 p. 53）。

- ⑬ Pek. No. 430, cf. 註 6).
- ⑭ Pek. No. 3495, bSam gtan phyi ma rim par phyed ba rgya cher bsad pa
(Dhyānottara-paṭala-ṭikā).
- ⑮ Pek. No. 112, cf. 註 8).
- ⑯ 六種の範囲 (mthaḥ drug) とは neyārtha, nitārtha, sābhiprāyika, nirabhi-
prāyika, yathāruta, ayathāruta.
- ⑰ 四種の仕方 (tshul bshi) とは samtāna, samaya, saṃvara, hetu.
- ⑱ Pek. No. 2661, sGrub paḥi thabs mdor byas pa (Piṇḍikṛta-sādhana).
- ⑲ Pek. No. 2668, sPyod pa bsduṣ paḥi sgron ma (Caryā-melāpaka-pradīpa).
- ⑳ Pek. No. 2674, ḥDus paḥi sgrub paḥi thabs rnam par bshag paḥi rim pa
shes bya ba (Samājasādhana-vyavasthāna-nāma).

Text

(52, b, 3) Oṃ bde legs su gyur cig.

hḡig rten mtho ris byaṅ grol lta baḥi mig / srid lam ḥkhyams pas
dub paḥi ṅal bsoḥi^① gnas // bde legs rtsa ba drin can bla ma daṅ / rje
btsun mkhyen paḥi gter gyi shabs la ḥdud //

ḥbad pa chuṅ ṅus rlabs chen tshogs sdud la / dge la rjes su yi raṅ^④
mchog tu gsuṅs // khyad par raṅ gyis sḡon byas dge ba la / rlom sems
bral bas dgaḥ ba cher bskyed^⑤ na // sḡon byas dge ba goṅ du ḥphel^⑥
lo shes / rgyal bas gsuṅs paḥi don de bsgrub phyir daṅ // dgos pa^⑦
gshan yaṅ maṅ du mthoṅ bas na / sems khyod dgaḥ ba ḥdī ltar bskyed
na legs //

daṅ por rgya chen maṅ du^⑧ thos pa btsal / bar du gshuṅ lugs thams
cad gdams par śar // tha mar ṅin mtshan kun tu ṅams su blaṅs / kun
kyaṅ bstan pa rgyas paḥi ched du bsḡos //

tshul ḥdī bsams śiṅ (53, a) mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che
ḥo rje btsun mkhyen paḥi gter //

I. daṅ por rgya chen thos pa maṅ du btsal

blaṅ dor gnas la kun nas ḥthoms paḥi mun / yaṅ dag thos paḥi

sgron mes ma bsal^⑨ bar // lam mi śes na thar paḥi groñ mchog tu /
 ḥjug par ḥgyur ba smos kyañ ci shig dgos // de ñid phyir na Mi pham
 chos rje dañ / ḥdsam gliñ rgyan drug mchog gñis shes grags paḥi //
 gshuñ la phyogs re ba dañ rags pa res / tshim par ma byas kun la
 shib tu sbyaṅs //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / gkaḥ drin che ḥo rje
 btsun mkhyen paḥi gter //

khyad par tshu^⑩ rol mthoñ bas dños po yi / de ñid gtan la ḥbebs
 paḥi sgo bcig pu // yañ dag rigs paḥi gshuñ gi dkaḥ gnas la / ḥbad pa
 du mas yañ nas^⑪ yañ du sbyaṅs //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje
 btsun mkhyen paḥi gter //

mdo sñags gshuñ la ñal ba mañ byas kyañ / zab don ñams su len
 dañ smra ba na // gañ yañ ma bslabs ci yañ mi śes paḥi / lta baḥi
 tshul las riñ du ma soñ bar // mthoñ nas lhag par Klu sgrub gshuñ
 lugs kyi / zab mo ḥbyed^⑫ paḥi phra baḥi rigs lam nas // yañ dag lta
 ba ḥdren paḥi gnad kun la / legs par byaṅs te the tshom chod par
 byas //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje
 btsun mkhyen paḥi gter //

ḥdi na rdsogs sañs rgyas su bgrod pa la / zab mo rdo rje theg dañ
 phar phyin theg // rnam pa gñis yod gsañ sñags phar phyin las / śin
 tu khyad par ḥphags pa yin no shes // ñi ma zla ba lta bur kun tu
 grags / tshig de bden paḥi tshig tu ḥdod bshin du // zab moḥi theg de
 ji lta bu shig ces / tshol^⑬ bar mi byed mkhas paḥi khur ḥdsin pa // de
 ḥdra de yañ śes rab can yin na / (53, b) de las gshan paḥi dbañ po
 trul po gañ // śin tu phrad dkaḥ goñ na med paḥi lam / ḥdi ḥdra yal
 bar ḥdor ba kye mḥo mtshal // de ñid phyir na rgyal baḥi theg pa
 mchog / sañs rgyas las kyañ dkon paḥi rdo rje theg // dños grub gñis
 kyi gter gyur zab mo der / shugs nas ḥbad pa mañ pos riñ du sbyaṅs //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje
 btsun mkhyen paḥi gter //

rgyud sde ʘog ma gsum gyi lam gyi tshul / mi šes de yis rnal ʘbyor
bla med rgyud // rgyud sde kun gyi mchog tu thag bcaḁ kyaḁ / dam
bcaḁ tsam du zad par legs mthoḁ nas // gsaḁs ba sphyi rgyud legs par
grub pa daḁ / dpuḁ bzaḁ gis shus bsam gtaḁ phyi ma sogs // bya rgyud
rigs gsum spyi daḁ byed brag gi / rgyud sde rnams la riḁ du ʘdris par
byas //

tshul ʘdi bsams šiḁ mdun ma legs nas gdaḁ / bkaḁ drin che ʘo rje
btsun mkhyen paḁi gter //

rgyud sde gḁis pa spyod paḁi rgyud rnams kyi / gtso bor gyur pa
rnam snaḁ mḁon byaḁ gi // rgyud la sbyaḁs pas spyod paḁi rgyud kyi
phyogs / gaḁ yin de yaḁ legs par nes par byas //

tshul ʘdi bsams šiḁ mdun ma legs nas gdaḁ / bkaḁ drin che ʘo rje
btsun mkhyen paḁi gter //

rgyud sde gsum pa rnal ʘbyor rgyud rnams kyi / gtso bor dpal ldan
de ḁid bsdus paḁi rgyud // bśad rgyud rdo rje rtse mo la sogs la /
sbyaḁs pas rnal ʘbyor rgyud kyi dgaḁ ston myoḁ //

tshul ʘdi bsams šiḁ mdus ma legs nas gdaḁ / bkaḁ drin che ʘo rje
btsun mkhyen paḁi gter //

bshi pa rnal ʘbyor bla na med pa la / ʘphags yul mkhas pa rnams
la ḁi zla ltar // yoḁs su grags paḁi pha rgyud ʘdus pa daḁ / rnal
ʘbyor ma rgyud kyai rdoḁ bde mchog gi // rtsa rgyud bśad paḁi rgyud
la sogs pa daḁ / mdo rgyud gshan daḁ bśad srol mi ʘdra baḁi // šiḁ
rtaḁi srol chen ¹⁶ dus kyi ʘkhor loḁi rgyud / gsal byed dri ma med paḁi
ʘod la sbyaḁs //

tshul ʘdi bsams šiḁ mdun ma legs nas gdaḁ / bkaḁ drin che ʘo rje
btsun mkhyen paḁi gter //

daḁ por rgya chen po ¹⁷ maḁ du thos pa btsal baḁi skab te daḁ po-
ʘo //

II. bar du gshuḁ lugs thams cad gdams par śar

de nas gdul byaḁi blo mun sel baḁi mchog // ʘjam paḁi (54, a) d-
byaḁs la śugs drag rgyun riḁ gi // dad pa brtan pos gshuḁ lugs gdams

pa ru / ḥchar phyir gsol btab rgyu tshogs kun la ḥbad //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje
btsun mkhyen paḥi gter //

de ltar ḥbad pas Klu sgrub Thogs med las / rim bshin brgyud paḥi
byañ chub lam rim la // thun moñ min paḥi ñes pa rñed gyur nas /
zab moḥi gshuñ mchog phar phyin gdams par śar //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje
btsun mkhyen paḥi gter //

byañ phyogs ḥdi na tshad maḥi gshuñ lugs la / sbyañs dañ ma sbyañs
du ma mgrin gcig tu // mdo dañ sde bdun kun la byañ chub tu / bgrod
paḥi ñams len rim pa yod min zer // ḥJam paḥi dbyañs kyis Phyogs
kyi glañ po la / dños su ḥdi rtsoms ḥdi ni ma ḥoñs dus // ḥgro ba kun
gyi mig tu ḥgyur ro shes / gsuñ gi gñañ btsal ba ḥañ tshad mar byed
// de ni mi rigs smra^⑩ baḥi phul byuñ du / mthoñ nas lhag par tshul
der dpyad pa na // tshad ma kun las btus paḥi mchod brjod don /
tshad ma grub par lugs ḥbyuñ lugs ldog gis // rnam grol don du gñer
la bcom ldan ḥdas / tshad mar bsgrubs śiñ de las de yi ni // bstan pa
kho na thar ḥdod ḥjug ñogs su / ñes pa gtiñ nas rñed pas theg gñis
kyi // lam gyi gnad kun ḥdril bar rigs lam nas / legs par thon pas
lhag par dgaḥ ba rñed //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje
btsun mkhyen paḥi gter //

de nas byañ sa mdo sdeḥi rgyan gñis po / legs par sbyar te tshul
bshin rab ḥbad pas // Mi pham chos rjeḥi gshuñ dañ rjes ḥbrañ gi /
gshuñ kun ñams su len paḥi gdams par śar //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje
btsun mkhyen paḥi gter //

lhag par zab ciñ rgya cheḥi gsuñ rab tshogs / bsgrigs paḥi go rim
ñid las lam gyi gnad // kun la ñes ster bslab (54, b) pa kun btus la /
brten nas mdo sde kun las btus pa sogs // Klu sgrub lugs kyi gshuñ
mchog du maḥi don // ñams su len paḥi rim pa legs par mthoñ //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje

btsun mkhyen paḥi gter //

de nas bsam gtan phyi ma rnam snañ ni / mñon par byañ chub
Sañs rgyas gsañ ba yis // legs par bśad paḥi man ñag la brten nas /
lam gyi gnad kun legs par gdams par śar //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje
btsun mkhyen paḥi gter //

dpal ldan de ñid bsdus paḥi lam gyi gnad / tiñ ḥdsin gsum gyis
bsdus par mthoñ²² ba ni // cuñ zad slar²³ yañ lam der zab moḥi don / sgom
tshul rtogs par dkaḥ ba paḇ chen ni // Sañs rgyas gsañ bas rtša bśad
cha mthun rgyud / rnam gsum sbyar te tshul bshin bśad pa dañ //
rgyud sde gsum gyi zab moḥi ñams len rnams / sgom rim ji bshin
bśad pas blo mun bsal //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo
btsun mkhyen paḥi gter //

thub paḥi legs bśad kun gyi mthar thug pa / dpal ldan rnal ḥbyor
bla na med paḥi rgyud / de yi nañ nas śin tu ches zab pa / dpal ldan
gsañ ba ḥdus paḥi rgyud rgyal la // smra²⁴ baḥi dam pa Klu sgrub ḥdi
skad gsuñ / rtša baḥi rgyud du lam gyi gnad rnams ni // mthaḥ drug
tshul bshiḥi rgya yis btab ste gnas / de phyir bśad paḥi rgyud kyi rjes
ḥbrañs nas // bla maḥi man ñag las ni śes byar gsuñs / tshul de gnad
du bzuñ nas man ñag gi // mthar thug mdor byas spyod bsdus rnam
gshag sogs / ḥdus pa ḥphags paḥi skor gyi phran kun la // riñ du ḥdris
par byas te rtša baḥi rgyud / sgron me lta bur gsal bar byed pa la //
brten nas bśad rgyud chen po²⁵ lña dañ ni / legs par sbyar la ḥbad pa
chen pos sbyañs // sbyañs pas ḥdus (55, a) paḥi rim gñis spyi dañ ni /
khyad par rdsogs paḥi rim paḥi gnad kun rñed //

tshul ḥdi bsams śin mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje
btsun mkhyen paḥi gter //

de yi mthu las bde dgyes dus ḥkhor sogs / rgyud sde mañ poḥi gnad
don gdams par śar //

de dag bdag gis gshan du bśad pas na / ḥdir ni rnam dpyod can la
sgo tsam shig //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje
btsun mkhyen paḥi gter //

bar du gshuñ lugs thams cad gdams par śar baḥi skabs te gñis
paḥo //

III. tha mar ñin mtshan kun tu ñams su blañs, kun kyañ bstan pa
rgyas paḥi ched du bsños

de ltar gdams paḥi gter du gyur pa na / theg chen gñis kyi thun
moñ lam dañ ni // thun moñ min paḥi lam gyi rim pa gñis / gnad
bsdus tshañ baḥi lam la ḥdris par sbyaṅs //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje
btsun mkhyen paḥi gter //

rgyal sras smon lam gañ gāḥi kluñ rñams ni / dam chos ḥdsin paḥi
smon lam nañ ḥdus par // gsuñs phyir dge rtsa ji sñed bsags pa na /
kun kyañ thub bstan rgyas paḥi ched du bsños //

tshul ḥdi bsams śiñ mdun ma legs nas gdaḥ / bkaḥ drin che ḥo rje
btsun mkhyen paḥi gter //

tha mar ñin mtshan kun tu ñams su blañs pa dañ / kun kyañ bstan
pa rgyas paḥi ched du bsños paḥi skabs te gsum paḥo //

rañ gi dge ba rgya cher spel phyir dañ / rnam dpyod ldan paḥi skal
bzañ mañ po la // ḥjug sgo ma nor tshul bshin bstan paḥi phyir / rañ gi
rtogs pa brjod pa ḥdi byas so // de las thob paḥi dge baḥi tshogs
rñams kyis / rim pa ḥdi yis ḥgro ba ma lus kun // thub paḥi brtul shugs
bla na med bzuñ nas / rgyal ba dgyes paḥi lam la ḥjug par śog //

Notes

ラサ版 (Kha, thor bu, 略号 IHa, この版は Toh. No. 5275, (58) に同じ) を
底本にし, Pek. 版, (No. 6060), タシルンボ版 (略号, bKra), 及び Shal ḥdon
ñer mkho phyogs bsdebs bshugs so (The Tibetan Monastery, Sarnath, Va-
ranasi, 1975) 中に収録されている校訂テキスト (略号, Varanasi) に依って校訂
した。() 内の数字は, ラサ版の葉数を示す。

① Pek. soḥi.

- ② Pek. tsan.
 ③ lHa. chu.
 ④ lHa. rje.
 ⑤ Pek. bsbyad.
 ⑥ lHa. dgas.
 ⑦ lHa. bskyad.
 ⑧ Varanasi. thos pa mañ du.
 ⑨ Pek. bsam.
 ⑩ Varanasi. tshur.
 ⑪ Varanasi. dañ.
 ⑫ Pek. moñi byed.
 ⑬ lHa. ðtshol.
 ⑭ Pek. klu.
 ⑮ lHa. Pek. bKra は全て bsdus; Varanasi に従う。
 ⑯ lHa. Pek. bKra は全て ðbyed; Varanasi に従う。
 ⑰ lHa. Pek. bKra は全て chen poñi; Varanasi に従う。
 ⑱ Varanasi. pas.
 ⑲ Pek. rtsa.
 ⑳ Pek. sna.
 ㉑ Pek. la.
 ㉒ Varanasi. bar.
 ㉓ lHa. Pek. bKra は全て sla; Varanasi に従う。
 ㉔ Pek. sna.
 ㉕ lHa. mo.
 ㉖ lHa. Pek. bKra は全て kyis; Varanasi に従う。

(本学専任講師 仏教学)